真豊鄙面影

竹戸六編

よのこと美し

一筆庵主人稿

一陽斎貞豊画

門人金恵

新刊

年毎ふ新刻する稗史こそ。江戸産物の第一なれ。浅草海苔ハ拂底でも。新版のく夥しく出れば出るゝと売るゞ都會。當りのものこそ魁て。其面影を寫す筆是こそ。お山の大将ぞとふゝぞ。品の能のゞ當世と聊時好ふ恊ひ一とて。彼所もがんゞ爰も減ゞ勝手ゆゝるひまるゝ齊く漫ふ仕入を惜むゞ故蒔ぬ種ハ生ぬも理り。仕て呉とそも世中ゝ。真似をさるも又大慶。今年ハ取ゝみ病ふ羅り。懶ることゝ他ふ後れ秋の季ゝゝ夜ゝをうけて。稿を終てゝも画工も船込ゝゝ賣物ふゝるゝとゝと。書價ゞ歎息もゝるゝゝむ。初手ゝゝ天窓筋割板ゝそ。配もべゆゞて板揃ひ。そゝゝひふ雙ひ一画師板元ゞ廻一早き発兌を祝ゝて自叙をとゝゝ

嘉永二己酉季秋稿成

同　三庚戌孟春発兌

一筆菴主人誌

足利義尚卿の
妾於三の方

赤松柏之助
保行

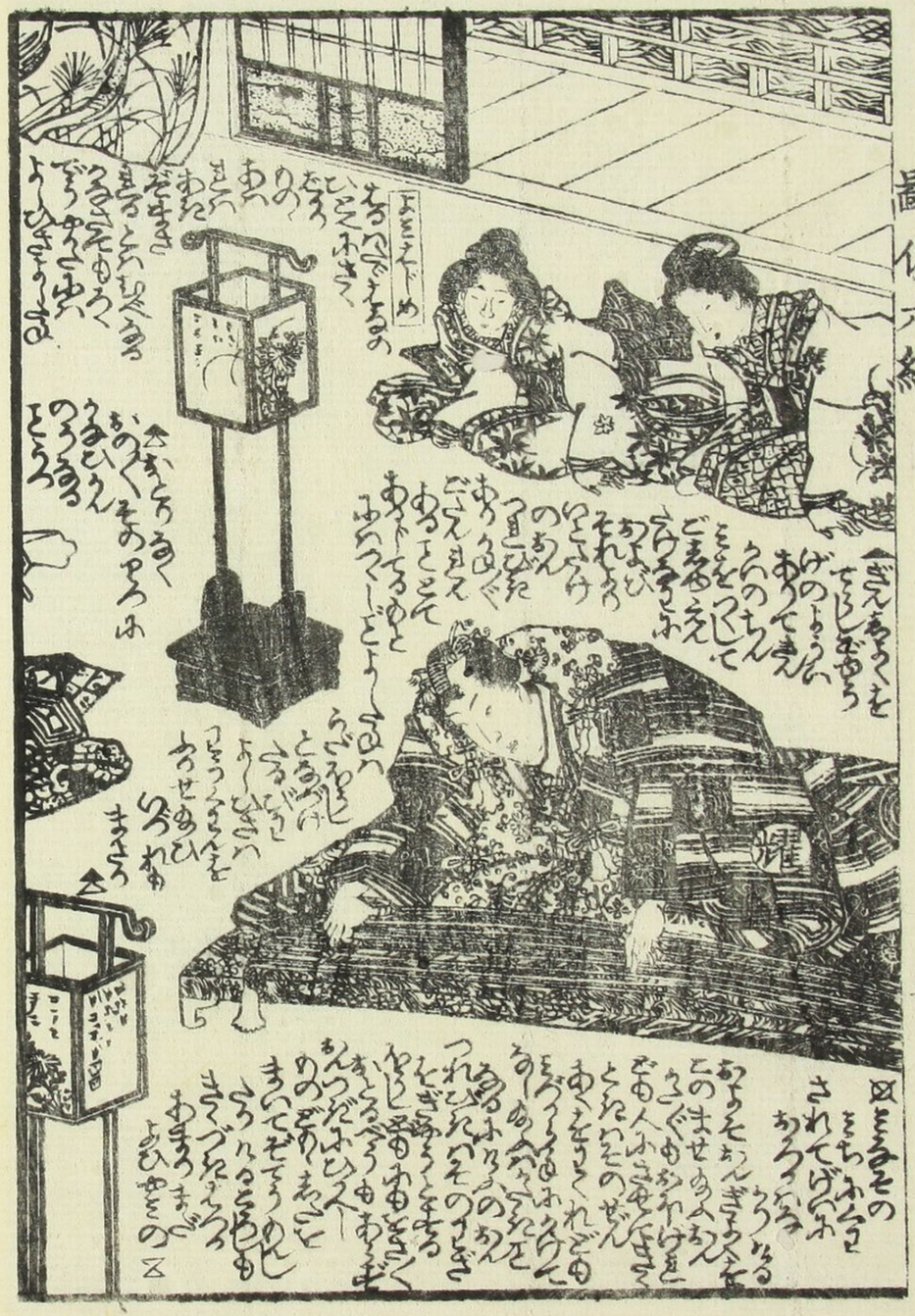
足利
耀基公
四拾歳の
賀宴ふ
依て
壽像を
刻まむ

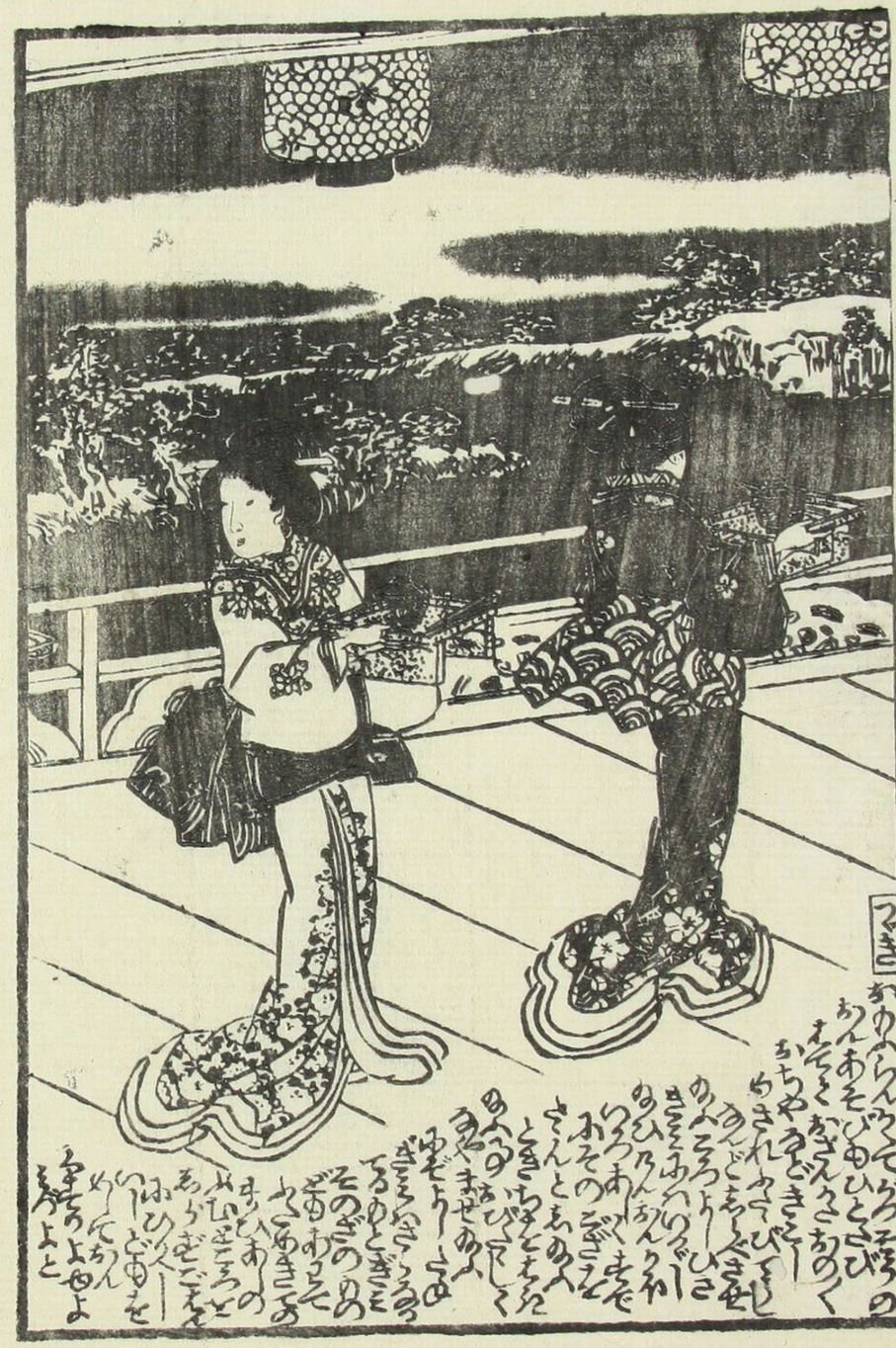
面打の名人
入目一満

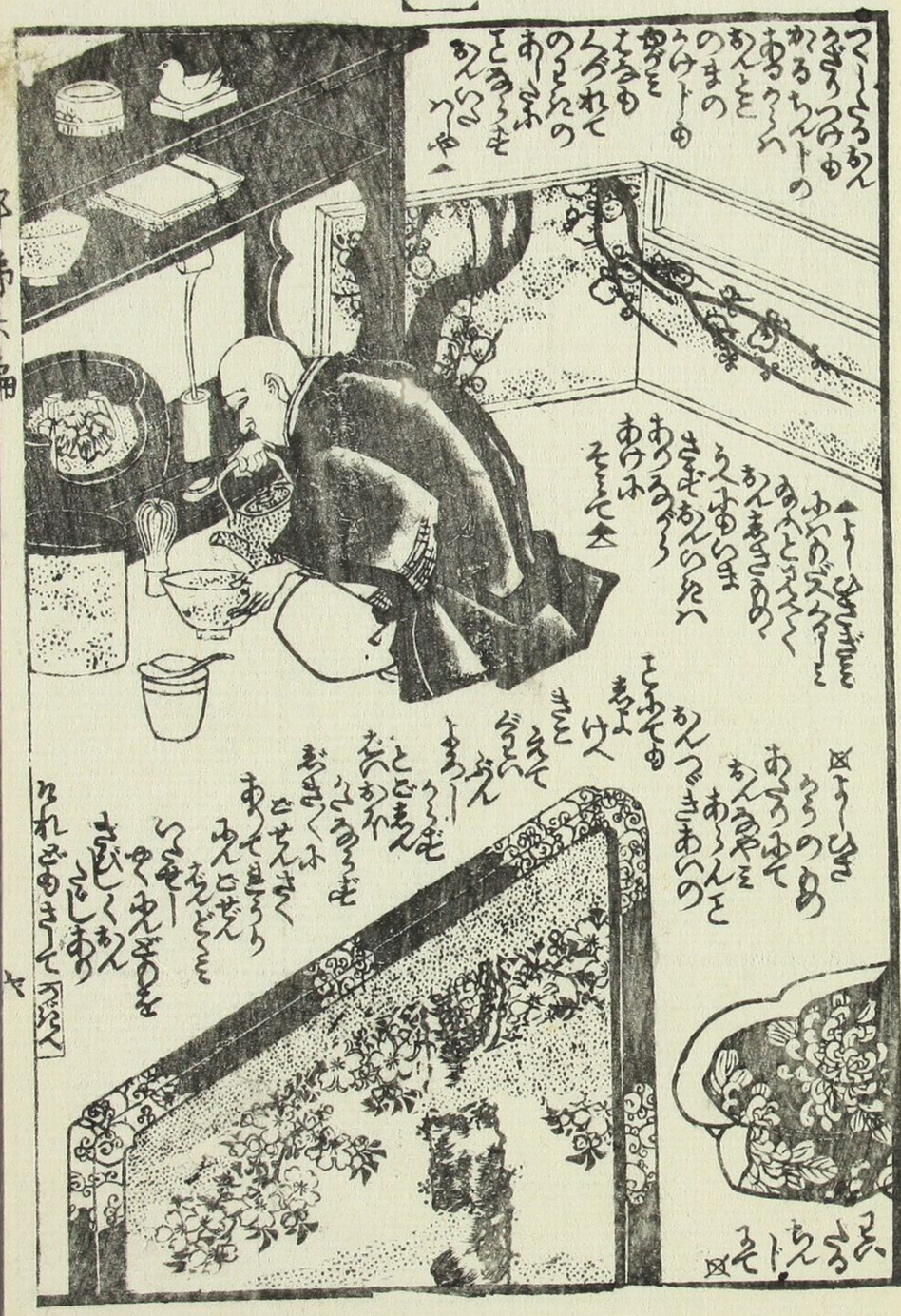
栃ぶ香成
けらるれとも
みるべ
せらる

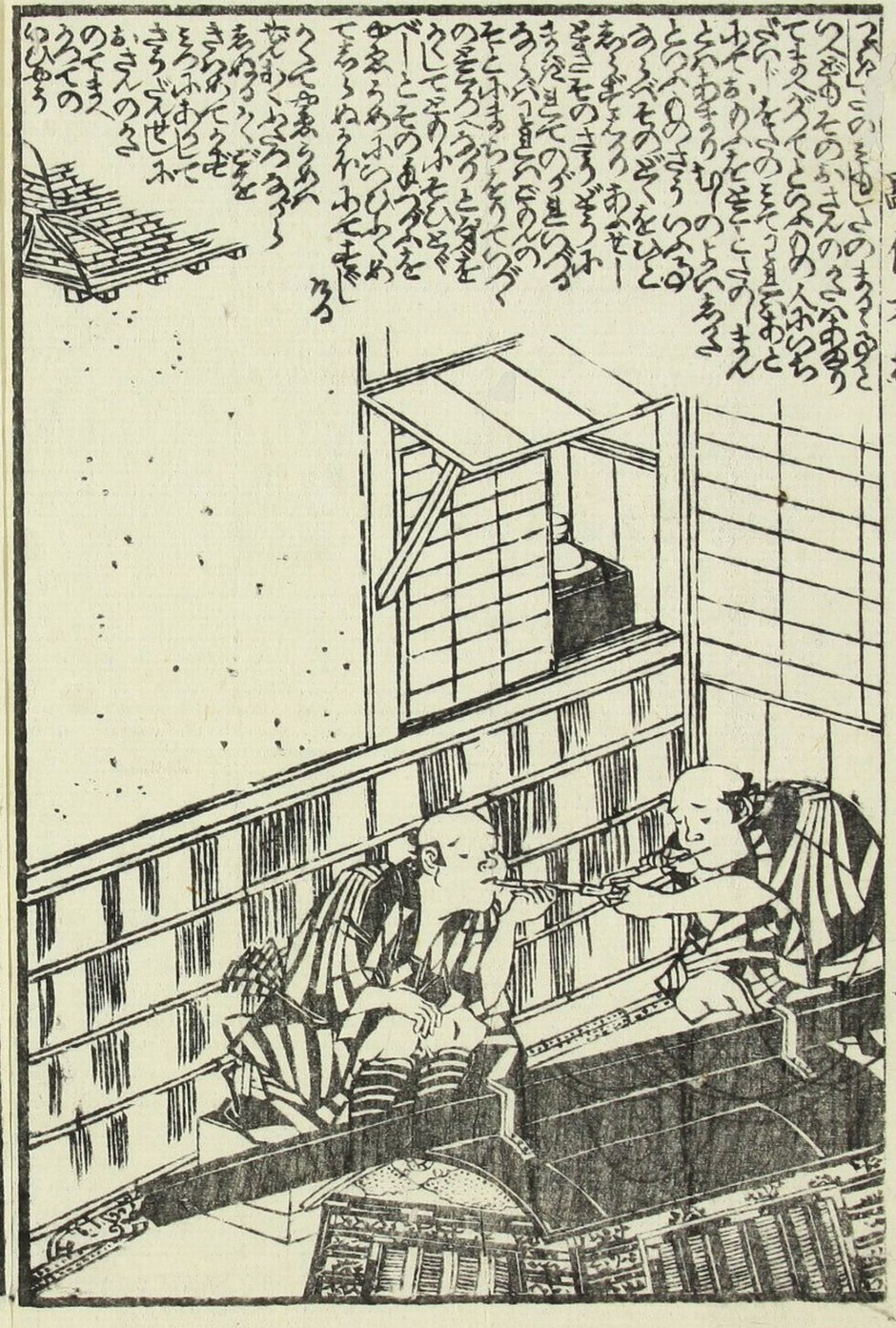
栃ぶ
牧ら
さるを
てらるれ

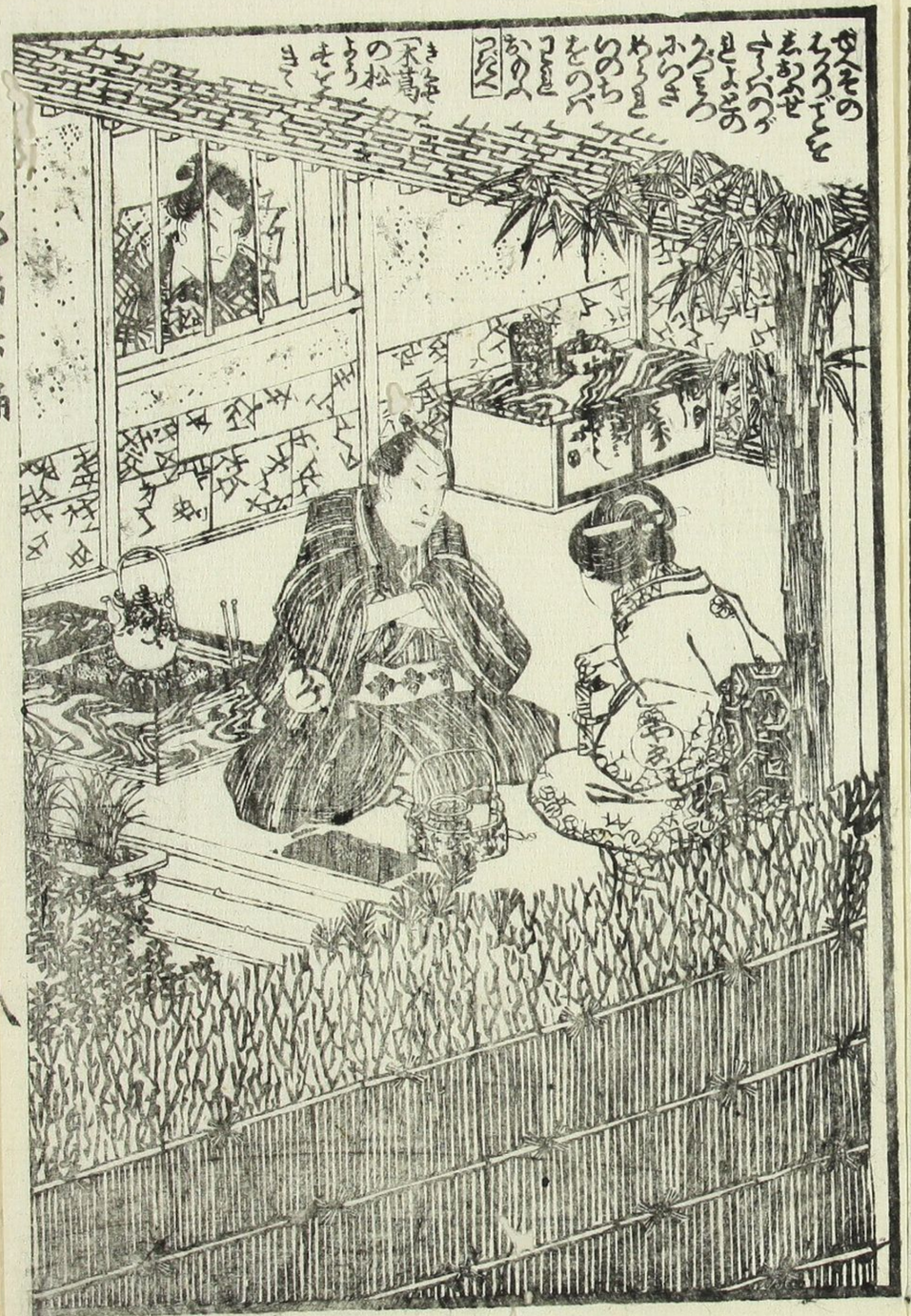
足利
耀る
基卿

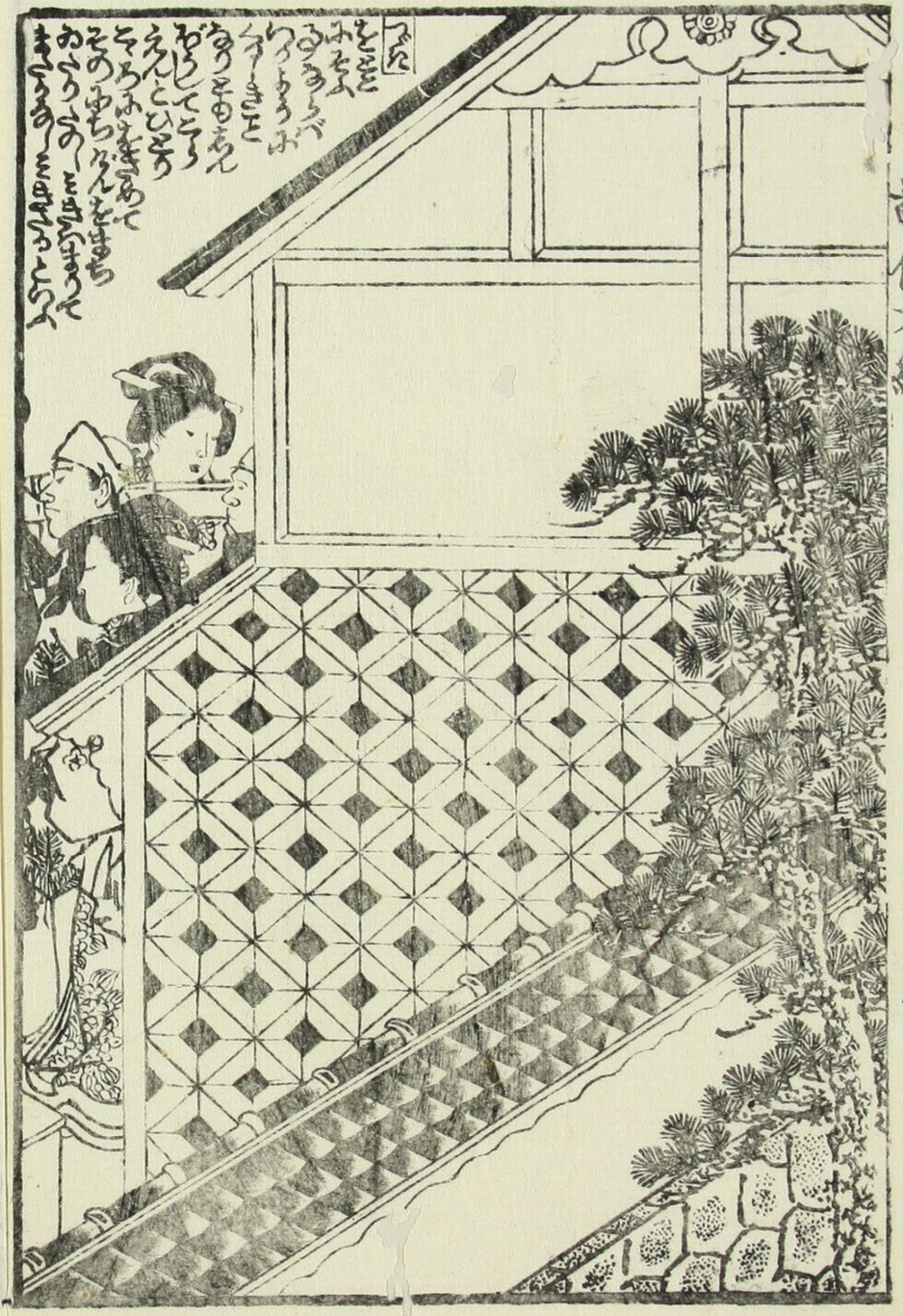


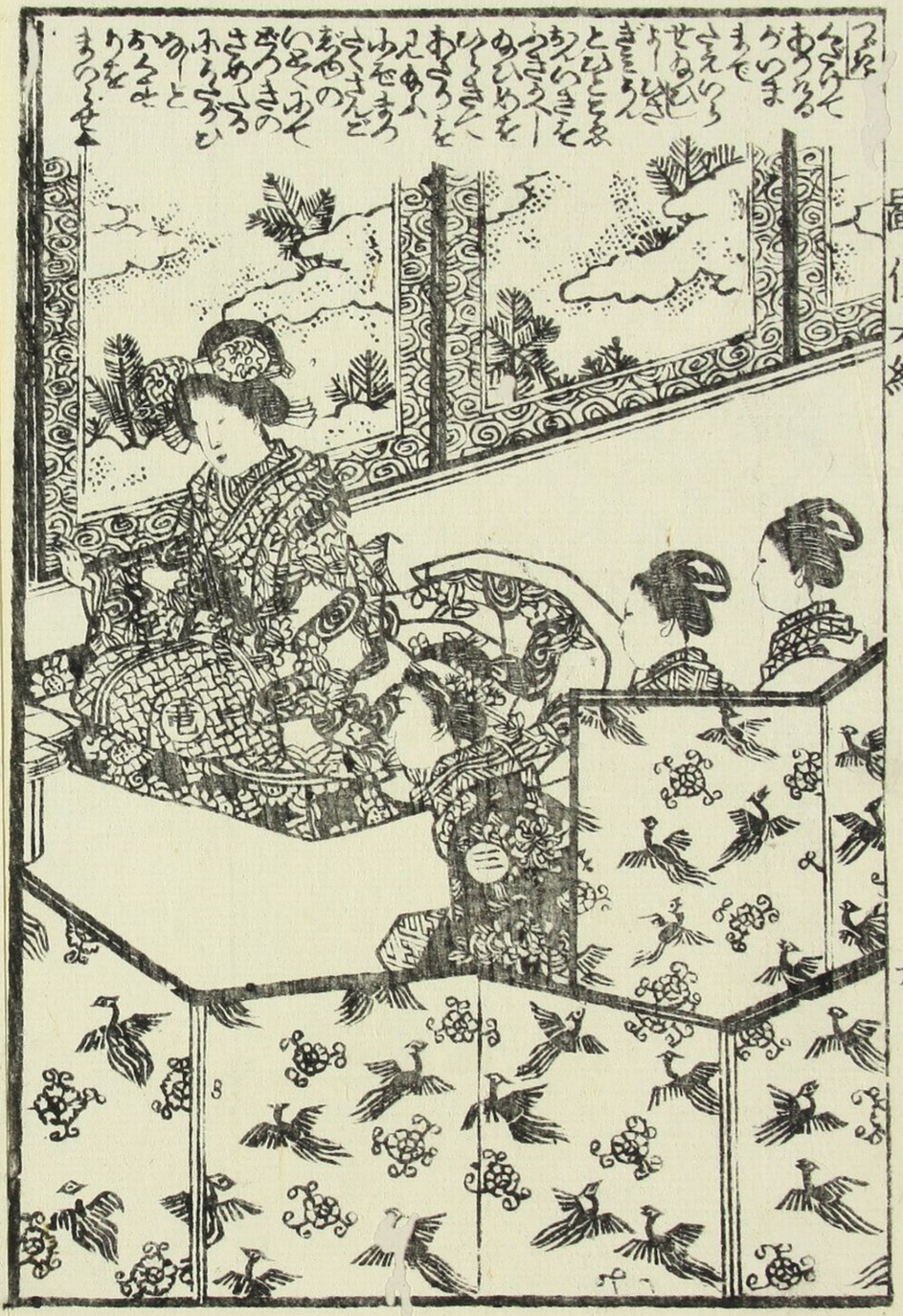


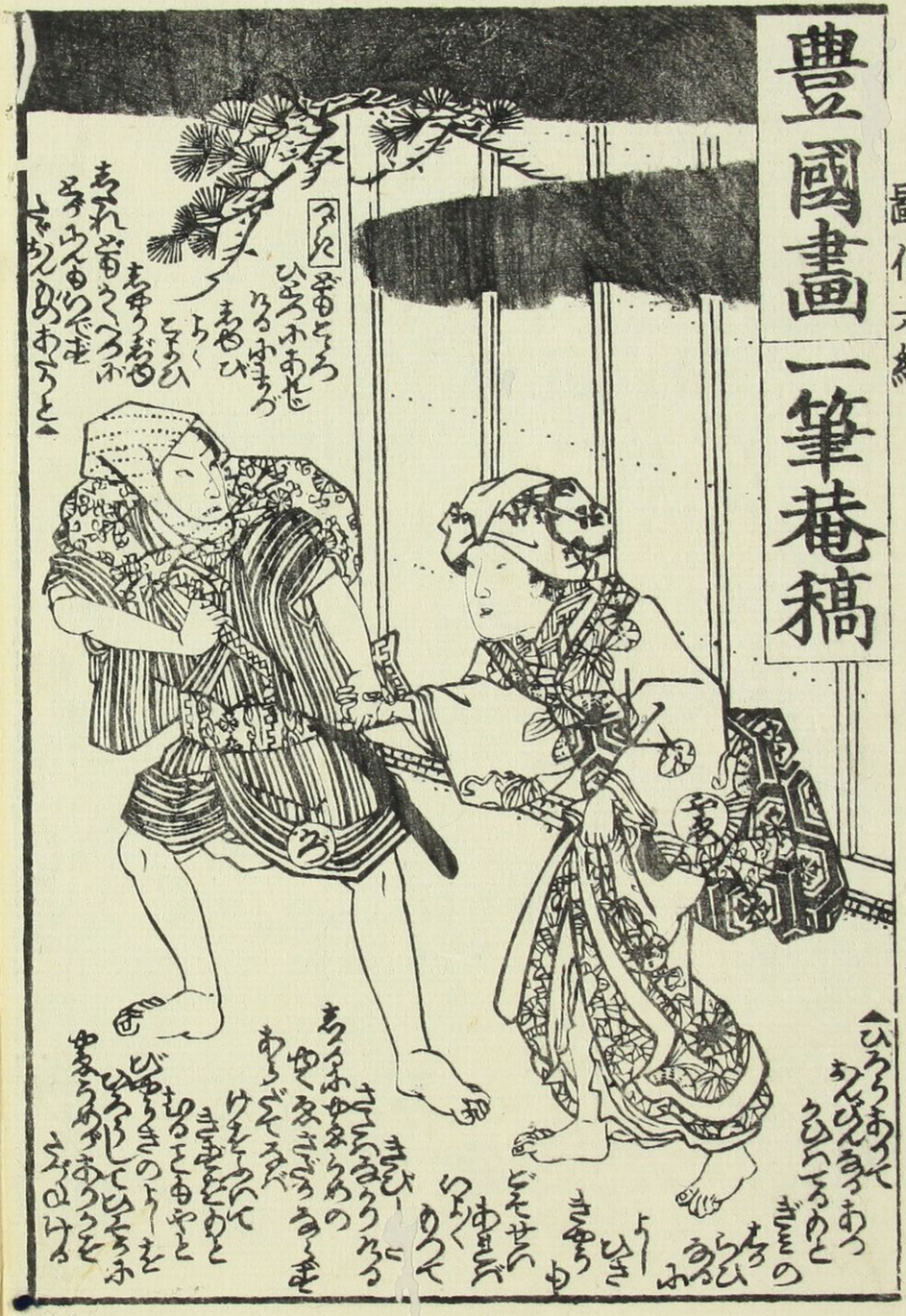












其由縁鄙俤

十四編 笠亭仙果著作
十五編 梅蝶樓國貞画
十六編

十勇士尼子の礎

三編 爲永春水作
四編 壽齋國貞画

雨夜鐘四谷雜談

五編 河竹其水作
六編 歌川國貞画

錦昇堂藏板略目録

比奈乃都大内譚

初編 笠亭仙果作
二編 一勇齋國芳画

地本繪草紙問屋 江戸通り町 惠比壽屋庄七板

一筆庵稿

豊国画

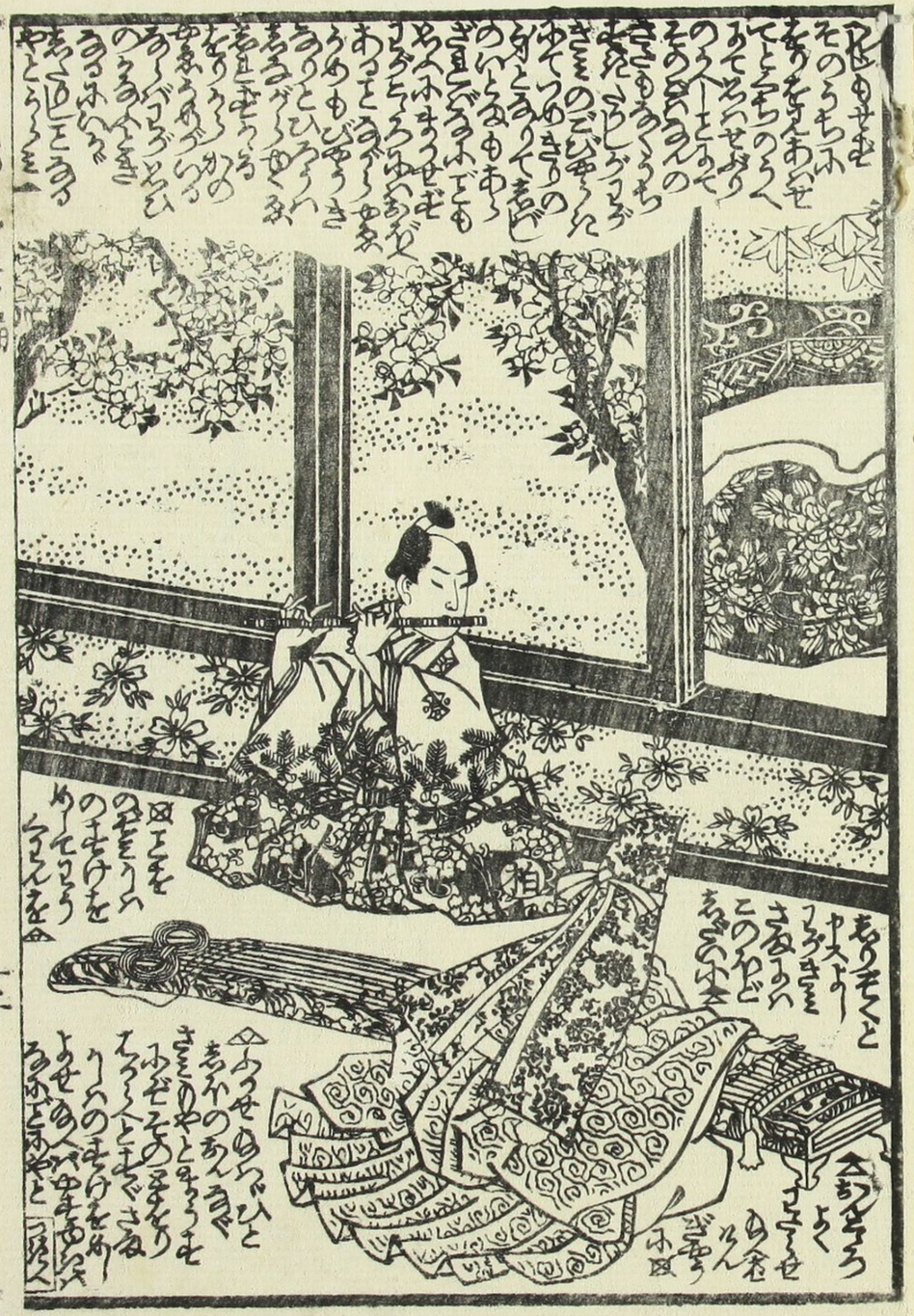
其紫（そのゆかり）　下

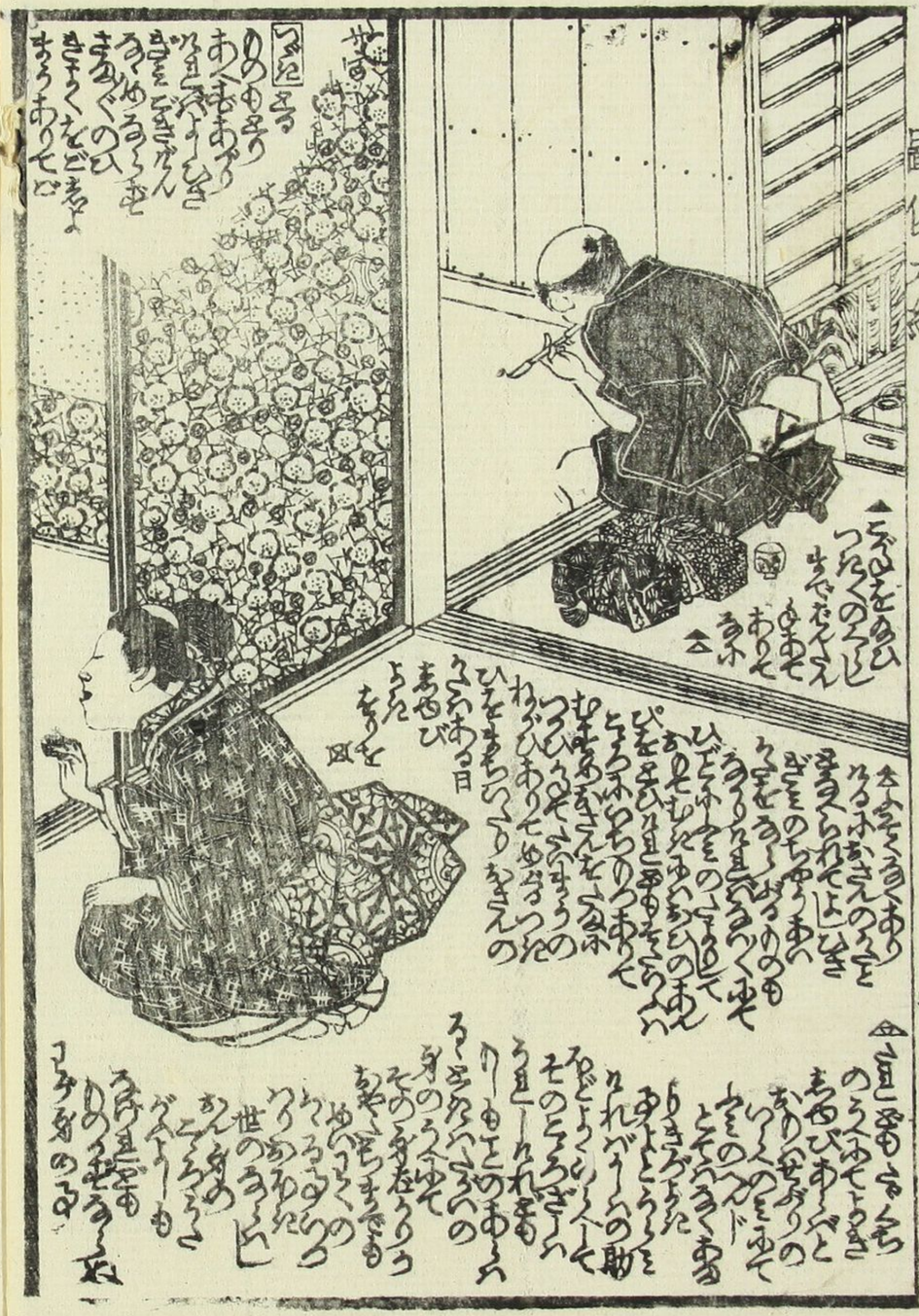
鼠面影（むものたもかげ）

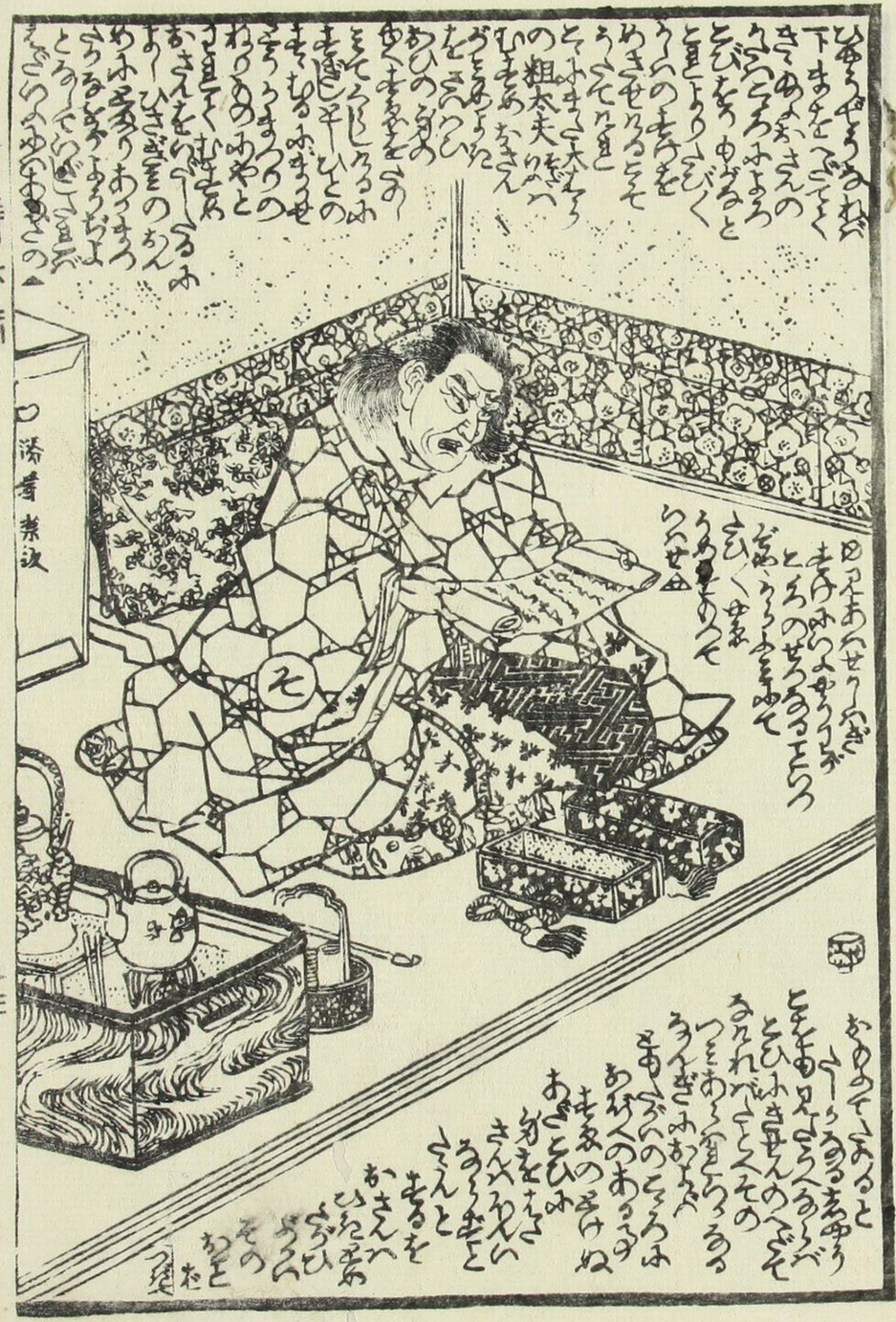
第六編　巻

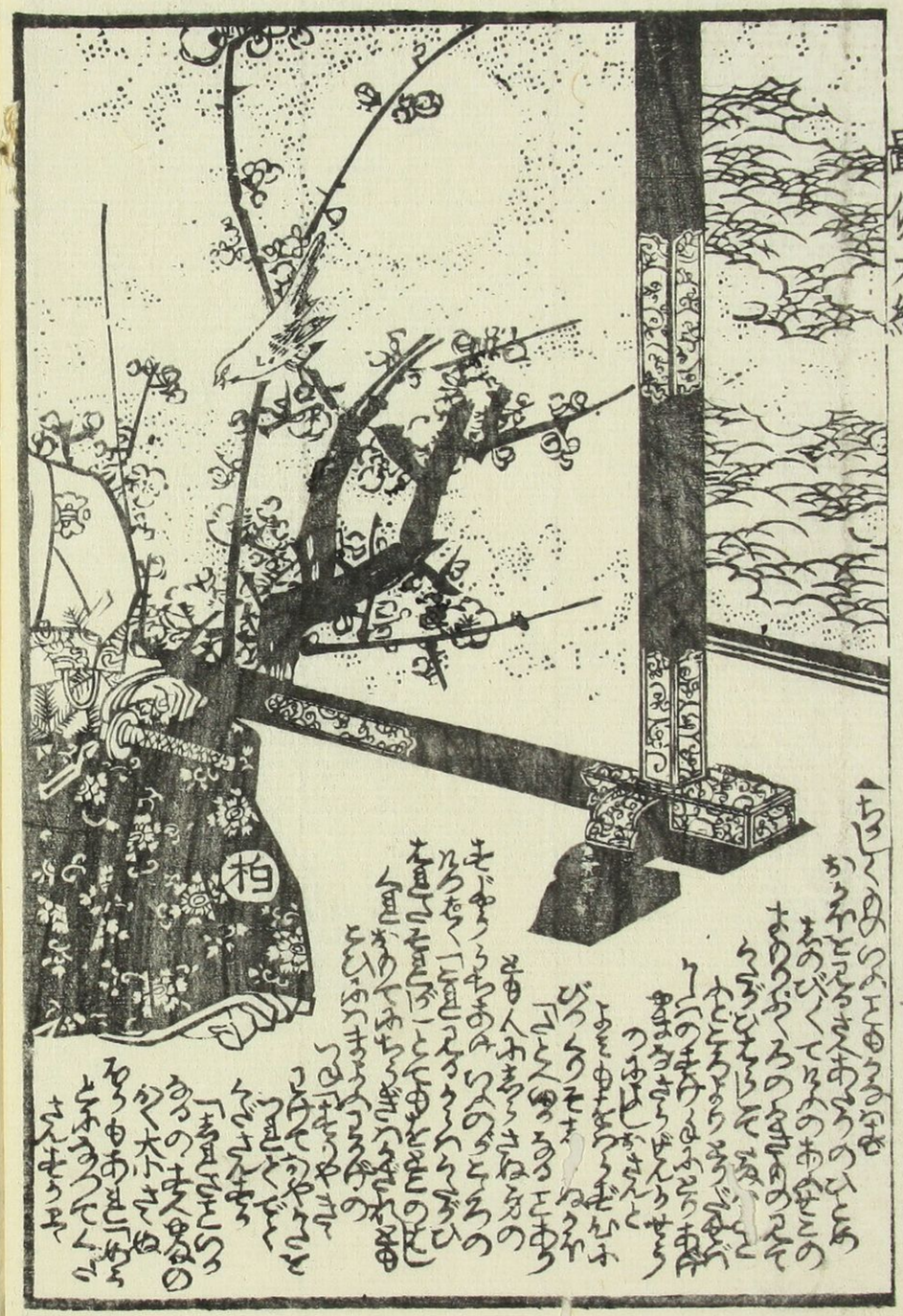
門人金色

慶応新刻

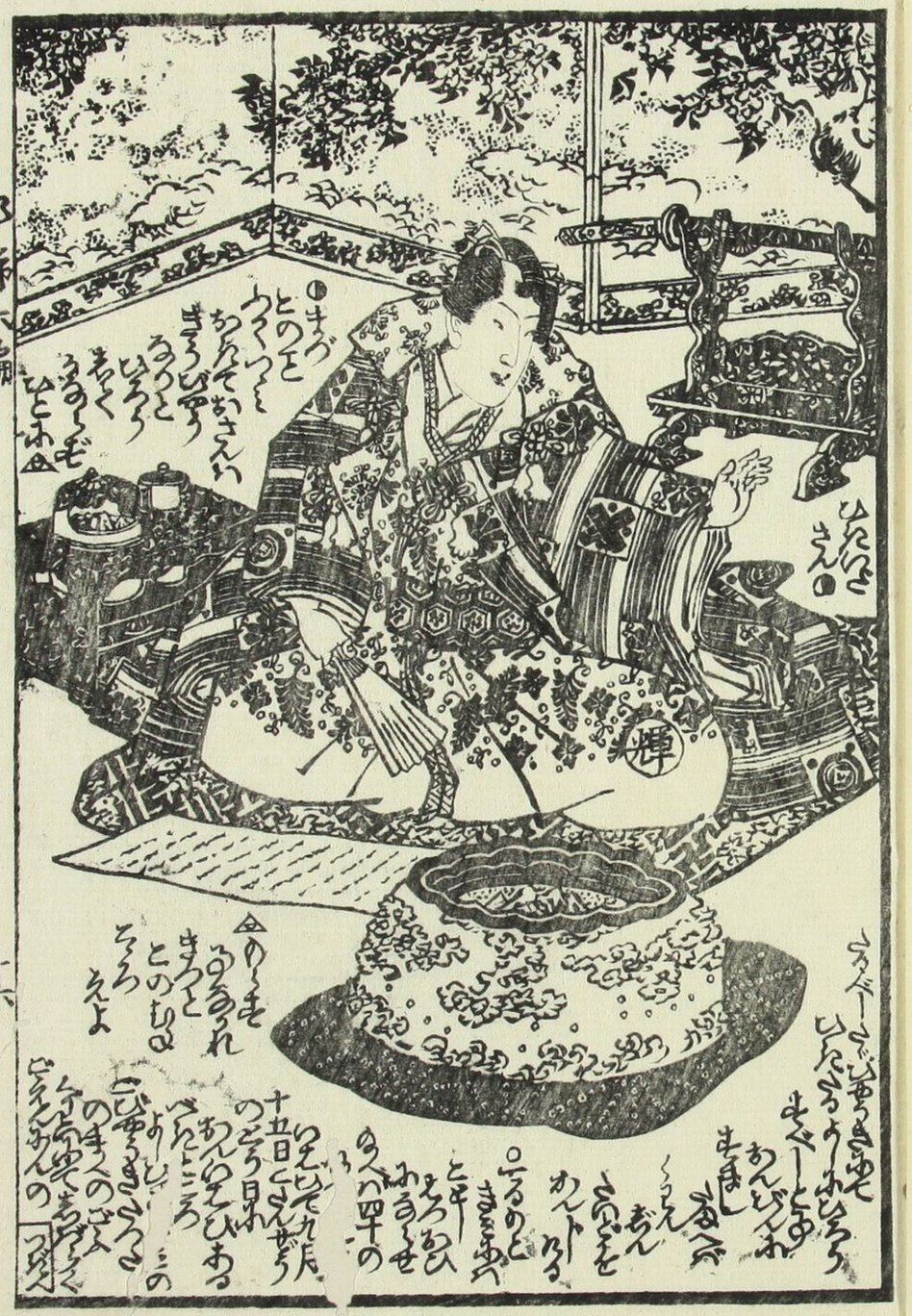




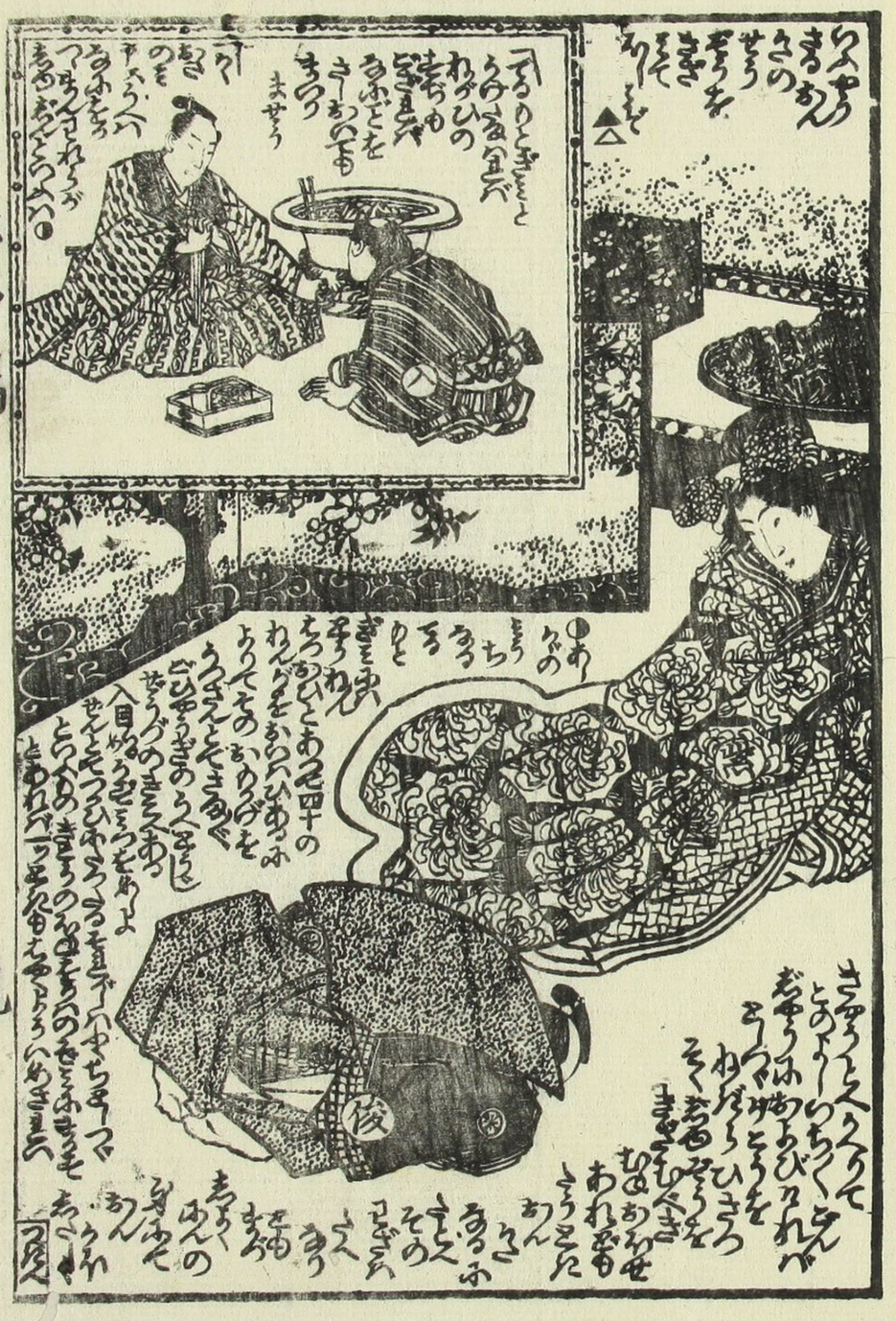



柏

三


輝

柏



一筆菴稿

一陽齋豐國画

樂亭西馬作　六編
稲妻形怪鼠摽子　出板
一勇齋國芳画　七編

比異仕立　二個ぐれ
黒雲多仙果伝
一寿齋國貞画　四編　五編

萬延二辛酉孟春新刻

萩紅葉　國貞画
種清録　宮津谷峠
全三編後切

壽笑亭笑壽作　五編
與謝武郎戀夜話
一壽齋國貞画　六編

錦昇堂　ちびきやさん